



その他ビデオシリーズ（原版・英語のみ）

REFLECTION ON PRACTICE

Introduction and Three Grant-Making Cases

フォード財団がモザンビーク、バングラデシュ、米国で実施した助成事業を事例として紹介。それぞれの地域、事業で社会変革を生み出すNPOを支援したプログラムオフィサー達が、支援の方法とスキルについて体験を語る。また、フォード財団理事長のソーザン・V・ベレスフォード氏がグラントメイキングにおける理念を総括的に述べている。(45分)

SCALING UP SUCCESSFUL WORK

Project GRAD

米国・ヒューストンの公立校で実施された、学習意欲、学力向上のための教育プログラム (Project GRAD) が成果を上げ、全米規模の教育プログラムへと発展していく過程を紹介している。事業の拡大・発展という新たに生み出されたチャンスにどの様に 대응するか、助成する側 (grantor) と助成を受ける側 (grantee) の協力関係、事業を全米規模へと発展させるために結集されたあらゆる財団の協力関係が見られる。(20分)

SUPPORTING A PLANNING PROCESS

Citizen Participation in Northern Namibia

北ナミビアに国立ナミビア大学の分校を創設するために、同大学が地域住民を招いてプランニングコミッティを設け、市民参画を推進しつつ分校開設の準備を進める過程を紹介。戦略的なプランの提供、関係者間のネットワークの構築、モデルとして米国のコミュニティーカレッジの視察などの支援をしながらも、あくまでも地域住民の自発性を尊重したプログラムオフィサーの関わり方が描かれている。地域振興、まちづくりなどのグラントメイキングに通じる指針が示されている。(15分)

AMPLIFYING NEW VOICES

International Collaboration in the Arts

アメリカ国内でパフォーミングアーツの国際交流を推進するという新しい試みを開始したプログラムオフィサーが、国際交流を継続して行ってきたNPOを見出し、彼らがこの分野でのリーダーとなるよう、国際交流事業を通じて知識と経験を習得する過程を援助したプロジェクト。民族誌 (エスノグラフィー) の手法を用いて活動記録を作成するという新しい手法も紹介している。(18分)

REVITALIZING A NETWORK

Joint Forest Management

フォード財団が中心となって推進した、コミュニティ参加を前提とした共同森林管理がインドの多くの州で定着するにいたって久しい。ジョイントフォレストネットワークはその管理方法の全国的推進を目的として設立されたが、周囲の変化に応じての適切な対応に遅れ、機能低下に陥ってしまった。新たに赴任したプログラムオフィサーが、ネットワークメンバーが自主的に組織を改善し、新しい目標の設定、グループメンバーの多様化等を通じてネットワークを再構築する過程を助け、また行政とのコミュニケーションの改善を図る様子が描かれている。(15分)

OPPORTUNITIES FROM THE UNPREDICTABLE

Hurricane Mitch

NGOどうしの協働を推進したいと考えつつ、互いに反目しあうNGOの様子にその目的を果たせずにいたオランダの国際・緊急援助NGOノビブ (NOVIB) のプログラムオフィサーが、ニカラグラを襲った自然災害 (ハリケーン・ミッチ) をきっかけに、ニカラグラのNGOどうしが協力して緊急援助に参加することを助けた様子を描いている。地域のニーズに応えるNGOの存在、市民活動の重要性を示している。(14分)

●英語版ビデオ、ガイドブック、事例集は、グラントクラフトのホームページ (英文) <http://www.grantcraft.org> で閲覧やダウンロードすることができます。英文ビデオもこのホームページから注文することができます。



ビデオ「グラントクラフト」のご案内

グラントクラフト (GrantCraft) は、米国のフォード財団が開発した助成財団の実務家のための研修資料です。ビデオ、ガイドブック、事例集で構成されています。

米国では、過去10年ほどの経済の好況を背景に新しい財団や新しい考え方のフィランソロピストが多く誕生し、また世界的にも地球的課題の急増に応えるシビル・ソサエティの活動を支援するための財団活動が活発化しています。これに伴い、より効果的な助成事業のあり方についての関心が高まってきたため、フォード財団では、これまで蓄積したノウハウや経験を他の財団と共有し、財団界全体の助成事業の質を向上させることを目的にグラントクラフトの開発に着手しました。すべての資料は「グラントクラフト」専用のホームページ (<http://www.grantcraft.org>) 上で閲覧・ダウンロードでき、現在も新しい素材が開発され続けています。

(財) 日本国際交流センターでは、日本のNPO助成のあり方の議論への貢献を目的として、グラントクラフトのビデオシリーズ (全9巻11話) の中から、現在の日本で最も参考になると思われる3話を選び、日本語版 (字幕スーパー入り) を制作しました。



日本語版のご紹介

スーザン・ベレスフォード

フォード財団理事長のメッセージ

財団とは、「何かを変えたい」と望む世界中の人々にとってのリソースなのです。リソースという言葉はとても大切で、私は、この言葉には二つの意味あいがあると思っています。1つには、助成財団のプログラムオフィサーは“解決”をもたらすのではなく、解決のための“リソース”であるべきだ、ということです。答えを押しつけるのではないのです。2つ目は、グランティー（助成を受けるNPO）に不足している「何か」を補うリソースを、プログラムオフィサーはできるだけたくさん持っていないてはならない、ということです。

もし、本当に革新的な変化を求めるのであれば、辛抱強くなければいけません。はっきりした成果や成功はすぐには見えないもので、何年も試行錯誤を繰り返して素晴らしい成果が生まれるのです。（中略）重要なのは、プログラムオフィサーがリスクを負ってでも助成したくなる環境、失敗してもそれを乗り越えられる環境を整えることでしょう。プログラムオフィサーは、成果の出ない不確定な状態に寛容でなければなりません。どんな事が起こるか予想はできないのです。ですから、思い通りに事が運ばなくても、財団はプログラムオフィサーをサポートする必要があります。彼らが次のステップへと踏み出し、失敗から学べるよう手助けすべきです。それこそが、財団が組織として持つ価値のひとつなのです。（ビデオより抜粋）

グラントクラフト (VHS/56分/日本語字幕)

制作・著作：フォード財団

ビデオ制作/スクリプト編集/スタディガイド執筆：茶野順子

(フォード財団グラントクラフト・ビデオプロジェクトリーダー、笹川平和財団より出向)

日本語版監訳：茶野順子

日本語版制作：(財)日本国際交流センター

助成：フォード財団、松下視聴覚教育研究財団

実費頒布価格：3200円(送料込み)

お問い合わせ・お申し込み：(財)日本国際交流センターへ

FAX: 03-3443-7580 email: books@jcie.or.jp



grantcraft
PRACTICAL WISDOM FOR GRANTMAKERS

■財団のコラボレーション：

■森林認証制度

□FUNDERS COLLABORATIVE Sustainable Forestry

森林保護のために、国際規格の森林認証制度をアメリカに導入し普及させていく事業を紹介。財団のプログラムオフィサーがカタリストとなり、他の財団や環境NGO、木材関連企業の協力を得て、制度を全米規模へと普及させる過程を描いている。財団間の協力関係の構築や、多様なセクターの間でのパートナーシップの構築など、プログラムオフィサーの重要な役割が示されている。(19分)



■ネットワークの構築：州財政分析事業 (SFAI)

□BUILDING A NETWORK State Fiscal Analysis Initiative

アメリカの連邦政府の予算と税制を分析する「予算政策センター」を参考に、州レベルで同様の「州財政分析事業：SFAI」を立ち上げ発展させる過程が描かれている。財団は、州財政の調査と分析ができるNPOを各州で探し出し、SFAIのメンバー組織として専門性を高めることができるようサポートする。各NPOは、自分の州の財政政策を分析し、それらの政策が社会的弱者にどのような影響を及ぼすかという視点に立ちつつ公正で信頼のおける情報を、政策立案者やマスコミ関係者、NGOに提供する。この事業を考案したプログラムオフィサーが、他の財団の賛同を得て共同助成で事業を拡大し、SFAIのメンバーNPOどうしのネットワークを拡大していく過程を示している。(18分)

■NGOと行政のパートナーシップ：DV被害者総合支援センター

□SUPPORTING A NEW PARTNERSHIP One Stop Crisis Center

フォード財団インド事務所のプログラムオフィサーがカタリストとなって、NGO、行政、病院のパートナーシップを構築し、ドメスティック・バイオレンスの被害にあった女性のために、保護から治療、精神的ケア、法的サポートまでを一か所で行うことのできる総合支援センター (One Stop Crisis Center) をボンベイ市の病院内に設立した事例を紹介。視察調査を通して目的を共有し明確化することで、異なるセクターに属する関係者が共通意識を高める様子など、プログラムオフィサーがいかにしてセクター間のパートナーシップを支援するかが描かれている。(15分)

